

地域連携(共同研究)希望テーマ：
造形資料館構想と感性のトレーニングシステムにつ
いて：市内美術館との連携から

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉山, 明博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7153

2007年3月8日

地域連携(共同研究)希望テーマ: 造形資料館構想と感性の
トレーニングシステムについてー市内美術館との連携からー



所属: 教育学部

氏名: 杉山 明博

連絡先(電話・ファックス): 054-237-9540

メールアドレス: easugiy@ipc.shizuoka.ac.jp

ホームページ:

【キーワード】

造形 参加 感性 フィードバック 蓄積

1) 研究の背景と目的

1. 美術館・児童館などの事業が単発で終ることなく、継続的に社会貢献できるシステムづくりをする必要がある。
2. バーチャル化される時代背景や操作性がより強くなるための失われる情趣や感性のトレーニングが必要と思われる。
3. 大学と美術館・児童館と各種教育機関とのリンクによる連携のシステムづくりにより、創造的で活性化できる内容を考える。

2) 研究の概要

1. 造形資料館のシステムと具体物の提案
事業が単発で終わるのでなく継続的効果を生んでいく貸し出し可能なシステムを考える。
2. 感性のトレーニングシステムを構築する
芹沢銈介の展示会をベースにテキストブックとワークブックの作成を市立美術館と連携で行った。この経験を生かし、汎用性のある内容を提案する。
3. 提案の実証と、創造的フィードバック
連携によって、相互乗り入れできる創造的フィードバックの可能なフォーマットの作成をする。連携により互が創造的に蘇生する方法の提案としてまとめる。

©研究段階…(着想・基礎・応用・開発・実践)

3)セールスポイント

1. 造形資料は、具体的に、あそび+まなびが一体化されているもので、今後さらに意味が増してくると思う。
2. 資料は、具体的で、こども達が参加し、工夫し、お互がコミュニケーションをとりながらつくり上げるものであり、オリジナリティーをすべて含ませている。
3. どこへでも移動でき、実践することが、団体、個人レベルでもできるため、社会の隅々まで、意志の伝達が可能となる。

4)応用、具体的な実践の可能性

1. 児童館・美術館などの公共施設や各種学校さらに企業の社会的貢献システムなどその共生をはかるため具体化が可能である。
2. 造形資料館は、内容が段階的にパック化され、各種要求や規模に適應するように制作するため、定着しやすい。
3. 感性のトレーニングワークブックについては、造形資料と一体化されるものやワークブック単独のものなど、感性教育の原則的内容を持っているので、充分実践の意味がある。
4. このような具体的手法を用いて、発想、具体化、フィードバックなどの全システムの連携なので可能性は大きいと考える。

造形資料の貸し出しシステムと相互互換性



木の河原で遊ぶ

河原や海辺の石ころは、大きさ、形、色など同じものは1つとしてありません。暮らしの中には、回転体を中心として、幾何学的形態のものが多いです。

すべて違う木の形を手で触れることが今後大切となってきます。これは創造的、知のネットワークの形成につながる大切なことです。

期待される効果

造形資料の貸し出しシステムにより次のような目的が実現されると思われる。

(1) 学びとあそびの一体化

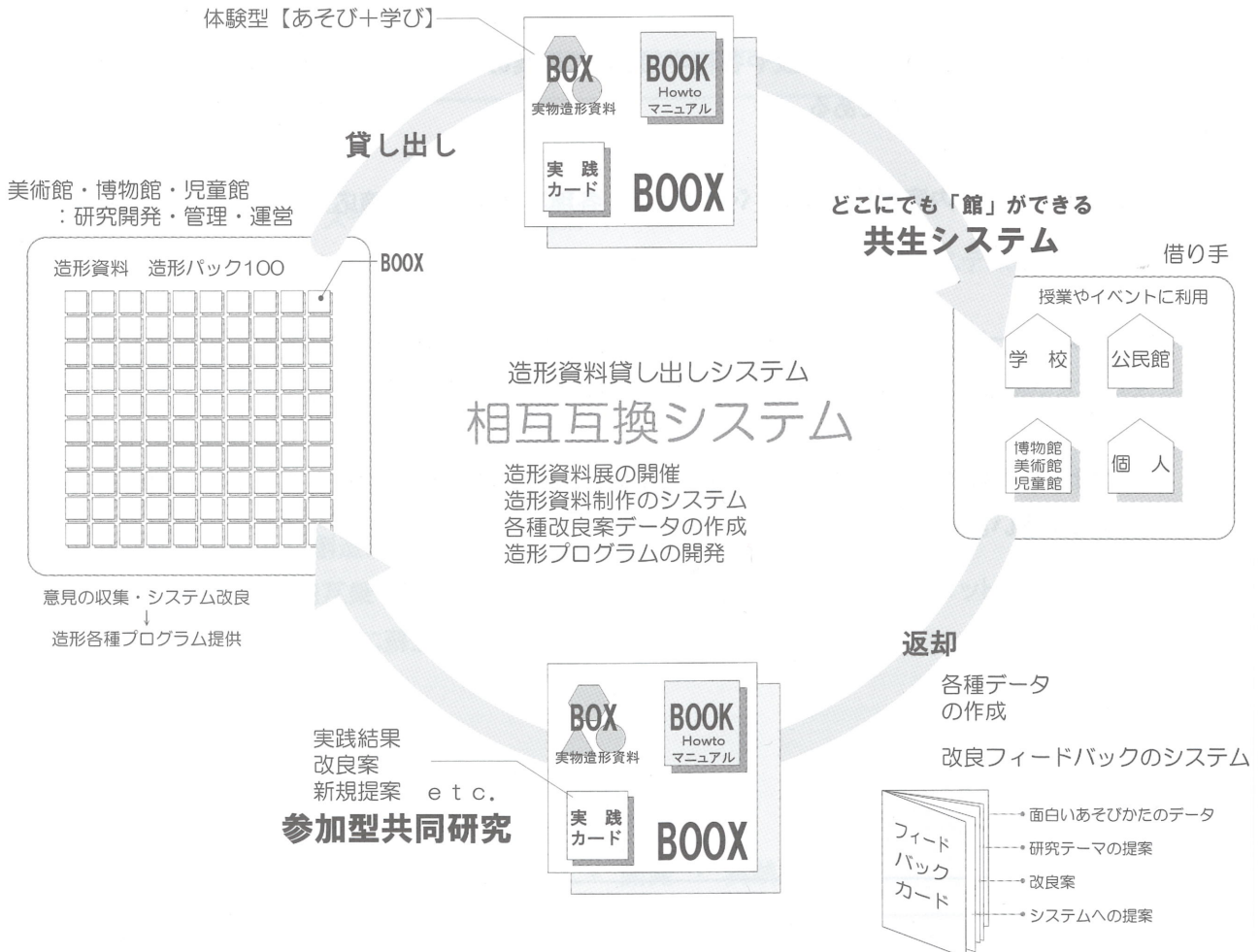
見て理解するものが多い中で、あそびに五感で参加し、つくり上げる工夫力によって学びを共存一体化させる。

(2) 共生のシステムをつくる

美術館・児童館に行ってもしか経験できなかったことが、新しい構想で、色々なところで共生でき、様々なところで存在することができる。

(3) 参加型共同研究

貸し出された作品に対して、使用者の意見がフィードバックされて、共同研究の形で改良新規提案が具体化される。常に鮮生する新しさとお出会える。



造形資料のヒエラルキー

造形資料は、個人や家族で楽しめる小規模のものから、保育園、幼稚園、小学校などの教育機関や公共施設などでの学びと遊びの一体化されたものとして造形資料を組立てるなど段階的に規模が大きくなっていく。

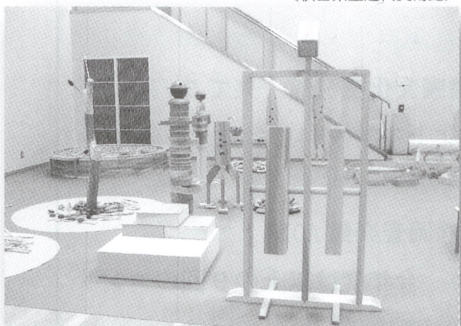
(さらに伝統のかたちや考え方、その現代的展開なども含めた内容のものも入れる。国際化の中で異文化を形や作法などを通して、理解することがのぞまれる。)

考え方をさらにふくらめるとかたちの道「木の100mロード」(後述)のように、貸し出すタイプと建物や公共の場に固定してセッティングしていつでも触れられるようにするものとして展開させる。

美術館、博物館、児童館などで大規模に経験できるように展示会の可能な内容として具体化させる。

常設され、いつでも体感出来るクオリティーとオリジナリティーのある作品群に触れられる造形館とする。

コレクション展の時に、こどもたちのために展示する。
(秋田県立近代美術館)



01 HIERARCHY

個人向け・家族向け
小さな規模で家族で楽しむ内容とする



小型なものは、形の図書館として貸出す

02 HIERARCHY

保育園・幼稚園・小学校など教育現場や公共施設などで楽しめるもの



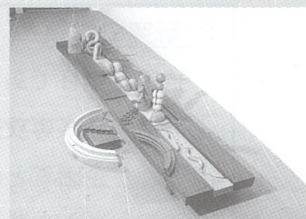
03 HIERARCHY

保育園、幼稚園から高校、大学に至るまでの幅広い対象に合う中規模のもので、引出箱などにセット化されて入っている



04 HIERARCHY

こどもから大人までを対象とし、公共施設に貸し出したり(移動式)、取り付けたり(固定式)するタイプのもの



05 HIERARCHY

大規模な造形展として、展示会一式を貸し出すシステムのもの



「造形の森」展として全国を巡回する

06 HIERARCHY

常設され、いつでも新しい自分と出会え創造できる造形館をつくる



掛川市・回帰館にて常設展示